

地方参事官ホットラインに依頼のあった小学校で出前授業を実施

小学5年生が総合学習で「2050年の食料問題」を探究する中、「農家数の減少」に辿り着き、原因やその対策等を教えて欲しいとの依頼を受け出前授業を実施。

○ 施策分類

農政の方向性、出前授業

○ きっかけ・背景、課題の把握

久喜市立砂原小学校の教諭から地方参事官ホットラインに、小学5年生15名のグループが総合学習で「2050年の食料問題」を探究する中で、食料危機の一要因として「農家の減少」の現状等を調べており、県拠点に「農家の減少等の現状、課題、対策等について教えて欲しい。」と出前授業の依頼があった。

○ 取組の内容

学校及び企画調整室と授業内容に関する協議を重ね、対象生徒を5年生全員70名に拡大して授業を実施することに決定。教材として、ジュニア農林水産白書等の既存の子供向け資料を材料に、独自の資料「農家の減少とこれからの日本農業」を作成。同資料と「食から日本を考えるニッポンフードシフト」の動画による講義の後に、質疑応答を実施した。

○ 効果・成果、今後の方向性

児童らは、自らが見つけた課題に対して、自分たちで調べて解決の道を探る探究学習に真剣に取り組んでおり、当拠点からの現状説明や問題提起により、学びをより深いものにできたと、好評であった。今後も地方参事官ホットラインの周知に務め、同様の依頼があれば前向きに対応し、日本農業の現状と将来への理解醸成に貢献したい。



出前授業風景



児童からの質問風景

体制図

